



隈府小だより

学校教育目標 「自ら考え なまこと高め合う 隈府小」

隈府小学校
学校だより No36
文責 芹川博文
1月 30 日(金)

「有言実行」 思いを力タチに ～児童会役員選挙の公約を果たしてタスキをつなぐ～

昼休みの運動場に、ルール説明の声が響き、その後、5、6年生合同のドッジボールが始まりました。ルールを説明した菊川 虎之助くんは児童会副会長です。約1年前児童会選挙の立会演説会で公約した隈府小全体でのレクレーション。別日には、1、2年生、3、4年生もそれぞれ合同で交流会を行い、子どもたちの笑顔の花が咲きました。

同じ日の5時間目前、「校長室前に富田 悠葵くんが待っていますよ」との連絡。急いで戻ると、児童会長の富田くんが、全校児童に呼びかけて完成した「ありがとうの花束」を持ってきて、「完成しました」と報告してくれました。連日、給食時間



に放送で呼びかけて募集。色とりどりの紙花には、一枚一枚「ありがとうメッセージ」が書き込まれています。この企画も菊川君と同様、富田くんが選挙公約で発表した内容のこと。どこに掲示したらよいか考え、来客用玄関の掲示板にしました。

そう言えば、二人とも、昨年末に行われた学校運営協議会での意見交換会で、「やりたいこと」として、目を輝かせながら発表していました。二人が果たした「有言実行」。どちらも隈府小全校児童みんなが笑顔になるプロジェクト。自分の考えを企画として提案し、全校児童に呼びかけて力タチにするまでの道のりは大変だったことでしょう。しかし、現6年生が残してくれた確かな足跡が、また一つ増えました。後輩にとって目標となる足跡です。

今週から登校時間に、次の児童会選挙に立候補した4、5年生が元気に挨拶運動をしています。隈府小のリーダーとしてのタスキが渡される準備は、もう始まっています。

大繩 3分で150回 記録を達成したのは4年生 ～学びと遊びの融合「没頭タイム」で育つ子どもたち～

3分間で150回。今年度の隈府小体育委員会主催、「クラス対抗 大繩大会」の最高記録です。この記録を達成したのは、6年生でも5年生でもなく、なんと4年生。記録を出した4年2組の子どもたちの「舞台裏」を知りたいと思い、担任の永野先生を取材したところ・・・

「最初、体育の授業の最後5分くらいでやってみたところ、3分間で20~30回くらいでした。そこで『練習しようか』と呼びかけ、昼休みに集まった10人くらいに、大繩に入るタイミングや角度を確認して練習したところ、みるみる上達。再び体育の時間にその10人でやって見せると、他の児童にも『やる気の火』がついて、昼休みにみんなでやるようになりました。イメージがついたんでしょうね。80回、100回と回数が伸びるにつれ、やる気も伸びてきました。」とのこと。

みんなで何かに取り組んで達成した経験、「没頭タイム」の中で工夫したり悩んだりした経験は、大きな自信となり成長の糧となることでしょう。「学び」と「遊び」の融合の中で、子どもたちは数値では計りにくい非認知能力も伸ばしているようです。

